

論文の要約

報告番号	甲 医 第 1243 号	氏名	山本 由理
学位論文題目	Tumor necrosis factor alpha inhibits ovulation and induces granulosa cell death in rat ovaries		

論文の要約

排卵現象は炎症に類似し、その機構には多様な炎症系サイトカインが関与する。これまで我々は、周排卵期に卵巣内のTNF α (tumor necrosis factor alpha) が増加していること、TNF α は炎症ケモカインであるCINC(cytokine induced neutrophil chemoattractant) を増加させること、CINCは好中球遊走を促進すること、さらにCINC中和抗体を投与すると排卵が抑制されることを報告してきた。このようにTNF α は周排卵期において重要な役割を果たすと考えられるが、その詳細は解明されていない。そこで今回我々は、周排卵期におけるTNF α の役割を検討した。

3週齢雌ラットにpregnant mare serum gonadotropin - hCG(human chorionic gonadotropin)による過排卵処置を行い、hCG投与と同時に両側卵巣囊内にTNF α を投与し、hCG投与後の排卵数およびアポトーシス関連因子とオートファジー関連因子の経時的变化を対照群(TNF α 非投与群)と比較検討した。

得られた結果は以下の通りである。

1. TNF α 濃度依存性に有意に排卵数が減少し、未破裂卵胞が増加した(対象群: 31.3±6.2 vs. TNF α 群: 7.0±3.7, p<0.01)。
2. TNF α 群では、顆粒膜細胞でTUNEL陽性細胞が有意に増加した(対象群: 7.0±2.1% vs. TNF α 群: 46.9±14.2%, p<0.01)。
3. TNF α 投与12時間後にBcl-2が減少し[mRNA(対象群: 2.11±0.33 vs. TNF α 群: 1.16±0.24, p<0.05)及び蛋白(対象との比: 0.54±0.43, p<0.01)], Bax/Bcl-2比が上昇した[mRNA(対象群: 1.25±0.11 vs. TNF α 群: 2.12 ± 0.33, p<0.05)及び蛋白(対象との比: 2.65±0.85, p<0.05)]。さらにカスパーゼ実行型であるcleaved caspase3のmRNAが増加していた(対照群: 1.80±0.50 vs. TNF α 群: 2.49±0.48, p<0.05)。
4. TNF α 投与12時間後にオートファジー関連因子であるLC3(light chain3)が増加した[LC3 α mRNA(対照群: 0.64±0.54 vs. TNF α 群: 1.80±0.60, p<0.05), LC3 β mRNA(対照群: 1.57±0.24 vs. TNF α 群: 2.42±0.64, p<0.05)及びLC3-II蛋白(対象との比: 2.65±0.10, p<0.01)]。
5. TNF α 投与によりオートファゴソームの増加が認められた(対照群: 38.6±9.8% vs. TNF α 群: 83.3±13.4%, p<0.05)。

以上より、排卵過程で増加するTNF α は、1) 卵胞破裂を抑制して未破裂卵胞を増加させること、2) 卵胞顆粒膜細胞において、アポトーシス関連因子とオートファジー関連因子を増加させることができることが明らかとなった。

このことより、周排卵期に増加するTNF α は排卵抑制作用を持つとともに、アポトーシスとオートファジーの2つのプログラム細胞死の経路を介して、未破裂卵胞の顆粒膜細胞死に関与していることが示唆された。